



農作業メモ

春ブロッコリーの栽培管理

この作型は、低温期に育苗ハウスやトンネルが必要となり、栽培に手間がかかりますが、農繁期に入る前の4、5月に収穫することが可能です。

主な品種の作型は、ピクセル、ジェットドームが1月下旬～3月上旬は種、4月下旬～5月下旬収穫、おはようが2月は種、4月下旬～6月上旬収穫です。

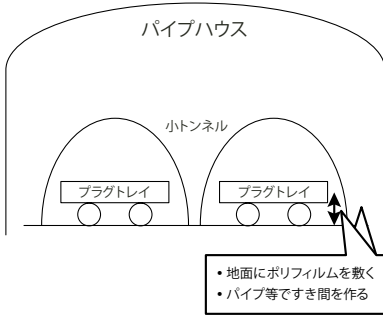


図1. 育苗場所の準備

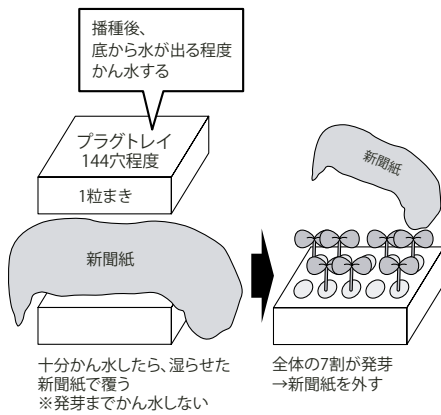


図2. は種時のかん水管理

1 苗づくり (プラグトレイ育苗)

(1) 育苗場所の準備
パイプハウス内の小トンネルで育苗を行います (図1)。

電熱線を使い地温を維持すると発芽が揃いやすくなります。

(2) は種

144穴程度のプラグトレイに1粒

まきします。は種後は、底から少し水がしみ出す程度にかん水し、湿らせた新聞紙等でプラグトレイを覆います (図2)。

ブロッコリーの発芽適温は25℃です。発芽が揃うまでは終日気温20℃を目標に管理します。

(3) 育苗管理

発芽後は日中の気温15～20℃、夜温5～10℃を目標にします。多湿条件ではべと病の発生が助長され、高温多湿では徒長苗になります。晴れた日はなるべく換気することがポイントです。定植が近付いたら徐々に温度を下げ、かん水を減らしてほ場に近い環境に慣らしてください。

2 定植

は種後35日、本葉3枚頃が定植適期です。

肥料は全量元肥で、10a当たり成分N 15kg、P 18kg、K 15kgを目安として施用します。定植7日前までにマルチ被覆して地温を上げておきます (図3)。

3 トンネル管理について

日中はトンネル内が25℃以上の高温にならないように換気します。花蕾の形成肥大期頃にはトンネルを除去します。

穴あきトンネルや不織布保温資材を利用することもできます。穴なしトンネルより収穫期が遅れますが、換気労力を減らすことができます。

4 収穫

気温が次第に高くなる時期なので、花蕾の育ちが早くなります。収穫適期が短いので、取り遅れに注意しましょう。

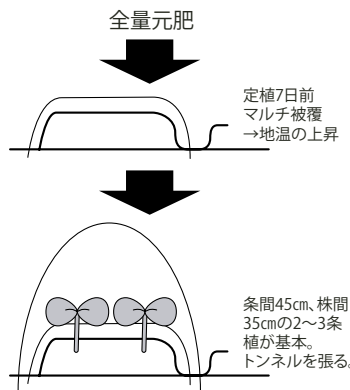


図3. 定植時の準備